

令和 5 年度 ECO-TOPプログラム 認定検討会（第 1 回）会議録

令和 6 年 3 月 25 日（月）
WEBによるオンライン開催

午後 時 分開会

○事務局（青山） 今年度初めての検討会でございますので、会長選任までの間、私のほうで進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、注意事項を申し上げます。まず、議事録作成のために、会議につきましては録音をさせていただきます。あとは、都庁の通信環境の状況によりましては、映像や音声等が途切れる場合がありますことをあらかじめ御了承いただければと思います。また、カメラにつきましては、事務局または皆様の通信環境によりまして映像や音声の不調になる場合がございます。そのような場合にはビデオをオフにすることをお願いすることがございますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。その他、何か不具合等がございましたら、Teamsのチャット機能または担当者宛てに電話で御連絡をいただければと思います。

続きまして、会議中のお願いでございます。会議中は、常にミュートの状態にさせていただきます。御発言になる場合は、Teamsの挙手機能を使用したり、画面に向かって挙手をしていただくなど、発言の意思を表明していただくようお願いいたします。万が一、挙手等をしているのに指名がないまま議事が進んでしまう場合は、大変恐縮ですけれども、ミュートを解除して御発言いただけますと幸いです。

本日は、傍聴の申出がございませんでしたので、傍聴人はございません。

それでは、今年度初めての検討会開催となりますので、初めに委員の皆様の御紹介をさせていただきます。委員の皆様は、御自身の名前が呼ばれましたら一度ミュートを解除していただき、一言いただければと思います。

初めに、黒沼委員でございます。

○黒沼委員 黒沼です。よろしくお願いいたします。

○事務局（青山） 渡邊委員でございます。

○渡邊委員 渡邊です。よろしくお願いいたします。

○事務局（青山） よろしくお願ひします。

村田委員でございます。

○村田委員 村田です。よろしくお願いいたします。

○事務局（青山） よろしくお願ひします。

なお、本日、大下委員につきましては、事前に欠席の御連絡を頂戴しております。また、辻阪委員でございますが、今、メールのほうで連絡を差し上げておりますので、出席され次第、また改めて御紹介を差し上げたいと思っております。

続きまして、東京都側の出席者を紹介いたします。

初めに、自然環境局計画課課長代理の岡野でございます。

○事務局（岡野） 岡野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（青山） 同じく計画課の西でございます。

○事務局（西） 西でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（青山） 私は青山でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、事前に資料を配付させていただきましたけれども、念のために確認させていただきます。お配りの資料一覧で確認させていただきます。

まず、会議次第でございます。資料１－１「ECO-TOPプログラム認定検討会委員名簿」、資料２－１「各大学からの変更申請内容一覧」、資料２－２「武蔵野大学申請補足資料」、こちらの資料２－１、２－２とも事務局作成資料となっております。

資料３－１「武蔵野大学申請資料」、資料３－２「武蔵野大学令和４年度申請追加資料」、資料４－１「桜美林大学申請資料」、資料５－１「令和５年度ECO-TOPプログラム都庁インターンシップ実施報告」、資料５－２「令和５年度ECO-TOPプログラムインターンシップ合同報告会開催報告」でございます。

そのほか、参考資料１～４としまして、認定大学一覧からプログラムの認定要綱等がございます。

資料はお手元におそろいでしょうか。資料につきましては、説明の際に画面にも共有いたしますので、そちらも御覧いただければと思います。

続きまして、会議次第を御覧ください。本日の議題でございます。

まず、（１）会長の選任、（２）会長代理の選任、（３）大学からの変更申請に基づく認定について、（４）その他となっております。

そうしましたら、これから議事に入らせていただきます。

初めに、議題（１）会長の選任でございます。本日はまだ会長が選ばれてございませんので、そこから進めたいと思います。参考資料のECO-TOPプログラム認定検討会設置要綱でございますけれども、５条に「検討会に、会長を１名置き、委員の互選によってこれを定める」と規定されてございます。会長の選任につきまして、御意見のある方は発言をお願いできますでしょうか。

渡邊委員が挙手されておりますので、渡邊委員、お願いいたします。

○渡邊委員 黒沼委員を会長に推薦いたします。

黒沼委員は、平成19年度当初よりECO-TOPプログラムに関わってこられておりまして、本制度に詳しいだけでなく、社会科学、人文科学の分野にも造詣が深いため、会長として適任と考えます。

○事務局（青山） 渡邊委員、ありがとうございます。

ただいま黒沼委員の会長就任を望む御発言がございましたけれども、委員のお二方、いかがでしょうか。

そうしましたら、黒沼委員、今、御賛同をいただいたところでございますけれども、会長を引き続きお引き受けいただけますでしょうか。

○黒沼委員 お引き受けいたします。ありがとうございます。

○事務局（青山） ありがとうございます。

ただいま黒沼委員のほうから御承諾をいただきましたので、引き続き黒沼委員に本検討

会の会長をお願いしたいと存じます。

そうしましたら、改めて黒沼会長から一言御挨拶をいただけるとありがたいのですけれども、お願いできますでしょうか。

○黒沼会長 ただいまECO-TOPプログラム認定検討会の会長に御選任を賜りました黒沼でございます。引き続きになりますけれども、会長をお引き受けさせていただければと思います。皆様とともにこの検討会が円滑に運営されるよう、最善の努力をしていく所存でございます。何とぞよろしくお願いいたします。

○事務局（青山） どうもありがとうございました。

そうしましたら、これからの会議の進行につきましては、黒沼会長をお願いしたいと存じます。

それでは、会長、よろしくお願いいたします。

○黒沼会長 それでは、2つ目の議題、会長代理の指名に移りたいと思います。まず、会長代理についてですけれども、これはECO-TOPプログラム認定検討会設置要綱の第5条第3項に、「会長に事故があるときには、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する」と規定されております。

私といたしましては、引き続き都立大学の渡邊眞紀子委員をお願いしたいと考えております。渡邊委員は、都立大学で長く教鞭を執られ、大学のカリキュラムについても詳しく、自然環境分野の知見も広くお持ちであることから、渡邊委員にぜひお願いしたいと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。

皆様の御賛同をいただきましたが、渡邊委員、会長代理をお引き受けいただけますでしょうか。

○渡邊委員 はい、お引き受けいたします。

○黒沼会長 よろしくよろしくお願いいたします。

それでは、渡邊委員の御承諾をいただきましたので、渡邊委員に本検討会の会長代理をお願いしたいと存じます。

それでは、議事に入らせていただきます。議題（3）大学からの変更申請に基づく認定について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（西） 事務局の西でございます。私のほうから今回の変更申請について説明をさせていただきます。

今回は武蔵野大学と桜美林大学の2校から変更申請がございました。まず、武蔵野大学からの変更申請について、資料の説明をさせていただきたいと思います。

まず、資料2-1、2-2が事務局作成資料となります。資料2-1は今回申請のあった2大学からの申請内容を簡単にまとめた資料です。次の資料2-2につきましては、履修モデルについての変更の前後を比較する内容となっています。

資料3-1が武蔵野大学からの申請資料となります。資料3-2についてですが、武蔵野大学につきましては、昨年度の組織改定に伴う変更申請の際に、シラバスについては提

出があり次第共有させていただくこととさせていただいています。このサステナビリティ学科は今年度に1年次科目が開講し、来年度に2年次科目が開講することとなります。そのため、今回は1年次、2年次開講科目のシラバスの提出がありましたので、資料3-2の「武蔵野大学令和4年度申請追加資料」としまして共有させていただきます。なお、3年次開講科目につきましては、令和7年度に開講されるため、来年度に大学からの提出を受けて共有させていただく予定となっております。

それでは、今回の変更申請について説明させていただきます。

資料2-1にありますとおり、武蔵野大学からは履修モデルの変更及び責任者・教員体制の変更について申請が来ております。

履修モデルの変更につきましては、こちらに記載の科目について、昨年度の申請内容から8科目について開講時期が変更となるとの申請です。変更内容については、資料2-2のとおりとなります。開講の時期が変更したものもありますが、開講の期間、例えば、共創型リーダーシップ論については、2年次の通年から2年の3学期、4学期と期間が変更しているのですけれども、そういったものも授業時間数や単位数に変更はありません。

また、責任者・教員体制につきましては、社会科学分野の2名の先生に変更がありました。

資料3-1が武蔵野大学からの変更申請書となります。

変更点は、履修モデルの変更と責任者・教員体制の変更として、履修モデルの変更の申請と責任者についての変更、教員体制については社会科学分野に田村先生、伊尾木先生の2名が追加された内容となっております。

以上が武蔵野大学からの変更申請内容となります。

今回の変更につきましては、軽微な変更で、ECO-TOPプログラム認定審査基準を満たしておりますので、事務局といたしましては、この申請につきまして認定手続を進めていきたいと考えております。

武蔵野大学からの変更申請につきまして、事務局からは以上です。

○黒沼会長 武蔵野大学の変更申請についての御説明をいただきました。

シラバスは2023年度開講だったので新しいものを全て提示いただいていますけれども、情報共有ということで、あくまでも参考資料として出していただきました。変更点としては、田村先生、伊尾木先生の2名の方の変更とシラバスの変更になりますので、その点を御確認ください。何か御意見はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、皆さん御了承いただいたということで、御意見がないということですので、事務局はいかがでしょうか。

○事務局（青山） ありがとうございます。

ただいま説明した内容につきまして御意見はなかったということで、今後、事務局のほうで認定の手続を進めさせていただきます。ありがとうございました。

あと、先ほど辻阪委員が参加されましたので、一旦御紹介をさせていただいてもよろしいでしょうか。

(黒沼会長通信不良により中断)

○事務局（青山） 青山でございます。

議事の続きを黒沼会長にお願いできればと思います。

その前に、辻阪委員が入られましたので、先に辻阪委員の紹介をさせていただいてもよろしいでしょうか。

○黒沼会長 お願いいたします。

○事務局（青山） そうしましたら、辻阪委員、こんにちは。よろしくお願いいたします。

先ほど委員の皆様の御紹介をさせていただいたのですけれども、一言お願いできますでしょうか。

○辻阪委員 遅れまして申し訳ございませんでした。

日本環境アセスメント協会の理事をしておりますプレック研究所の辻阪と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

○事務局（青山） よろしくお願いいたします。

そうしましたら、会長、議事の続きを桜美林大学の変更申請からお願いします。

○黒沼会長 それでは、次に、桜美林大学からの変更申請について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（西） それでは、私、西から桜美林大学の変更申請について説明させていただきます。

画面の共有をさせていただきます。

桜美林大学につきましては、責任者・教員体制の変更と、科目の概要の変更の申請があります。責任者の変更といたしまして、大学の組織としての部分ですが、来年度から学群長が変更されます。また、教員体制の変更としてECO-TOPプログラム担当教員が1名追加されます。

そして、3科目について新しく入った木村先生が担当となるため、シラバスの変更についても申請がありました。専任の先生もほかの科目を担当し、引き続きECO-TOP担当教員となりますので、より多くの先生でECO-TOPを実施されるという内容となっております。

資料4-1の桜美林大学の申請書がこちらとなります。責任者・教員体制の変更と科目の概要の変更となっております。様式9号については、新学群長の変更がこちらです。教員体制につきましては、4分野において木村先生が追加となっております。

3科目についての新しいシラバスがこちらとなります。まず、環境学入門については担当教員の部分のみの変更となりまして、内容に変更はありません。

次に、エネルギーと環境についてです。変更前はエネルギーについて、環境分野を理解するために必須となる基礎的な知識を習得することを目標として開講されています。基本的な知識を最新の社会動向と合わせて身につけるという科目の趣旨はこれまでの内容を引

き継いだものとなっております。

最後に、環境リスク論につきまして、こちらは変更前から環境リスクと社会課題について学び、様々な主体の取組を学ぶという内容は引き継ぎまして、今回の変更後はグループワークを多く取り入れて、自分の考えを説明・表現する内容が追加されています。学生に主体性を求める内容となっており、ECO-TOPプログラムの趣旨に合う内容となっているかと思います。

以上が桜美林大学からの変更内容となります。

桜美林大学からの変更につきましても、軽微な変更で、ECO-TOPプログラム認定審査基準を満たしておりますので、事務局としましては、こちらも認定手続を進めたいと考えております。

事務局からは以上です。

○黒沼会長　ありがとうございます。

桜美林大学の変更申請についての御意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

各シラバス等は、様式5号になっていたと思いますけれども、大学のシラバスとECO-TOPのシラバスは多少違っています。大学の渡邊先生はよく御存じだと思うのですが、今は非常に細かくシラバスを書くことになっていて、予習・復習全てきちんと一つ一つのこまについて書いているのですが、ECO-TOPではそこまでは求めていないという形でのシラバスになっています。必要に応じて、各大学のシラバスの内容をホームページで見ただけだと思います。

何か御意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、御意見はなかったということで、事務局からいかがでしょうか。

○事務局（青山）　どうもありがとうございます。

そうしましたら、桜美林大学の変更申請につきましても、今後、事務局のほうで認定手続を進めさせていただきます。どうもありがとうございました。

○黒沼会長　ありがとうございます。よろしく願いいたします。

それでは、最後に議題（4）その他ですけれども、事務局から何かございますでしょうか。

○事務局（西）　事務局からは2点、今年度のECO-TOPプログラムの報告と生物多様性戦略の中でのECO-TOPプログラムの位置づけについて情報共有をさせていただきます。

まず、今年度の報告としまして、都庁インターシップと合同報告会について説明させていただきます。

資料を共有させていただきます。資料5－1「令和5年度ECO-TOPプログラム都庁インターンシップ実施報告」となります。

東京都は、行政分野でのインターンシップ先の一つとして、毎年ECO-TOPインターンシップの受入れを行っております。今年度は玉川大学、桜美林大学、武蔵野大学、東京薬科大学が初参加となりまして、4大学から学生9名が参加し、5日間の日程で実施いたしました。

た。

今年度改定しました東京都生物多様性地域戦略に合わせて、生物多様性の普及啓発をテーマにインターンシップを行いました。初日は座学で都の施策を知ってもらい、その後、現場実習として2日目は高尾山の現場視察、3日目は八王子市の保全地域で保全についての講義とボランティアさんの指導の下で保全活動の体験等を行いました。最終的に、都の行う生物多様性を主流化するための取組について提案発表を行ってもらいました。

続きまして、資料5-2「ECO-TOPプログラムインターンシップ合同報告会開催報告」を御覧ください。

こちらはECO-TOPプログラム認定大学の合同行事として例年開催しているものでして、プログラム履修生にポスターセッションという形でインターンシップでの経験について発表してもらっています。令和5年度は、都庁の隣のNSビルの会議室にて開催をいたしまして、少し緊張感のある中でプレゼンテーションを行ってもらいました。合同報告会は、他大学の学生との交流の機会となっており、経験した内容についてプレゼンを行う貴重な機会となったとの感想をもらっています。

今回は新しい試みとして、都が民間団体と連携して行っている事業で活動する学生さんとの意見交換の時間を設けました。企業に対して企画の提案を行い、企業と一緒に実行していくというインターンシップとは別の切り口から企業と関わる学生さんの話を聞き、意見交換をする時間となりました。

次に、昨年度の認定検討会にて共有させていただきました生物多様性地域戦略につきまして、4月に改定されましたので、その中でECO-TOPプログラムが位置づけられていまして、そちらについて岡野から説明をさせていただきます。

○事務局（岡野） 続きまして、私、岡野から生物多様性地域戦略におけるECO-TOPプログラムの位置づけについて簡単に御説明させていただきます。

資料は配付させていただいておりますので、画面のほうで簡潔に御説明させていただきます。

こちらは、令和5年度、昨年4月に東京都生物多様性地域戦略を改定いたしまして公表しております。昨年度の検討会の中で、当方課長の青山から概略を簡単に御説明させていただいたかと思います。このたび、ECO-TOPプログラムの位置づけについても簡単に御説明させていただければと思っております。

地域戦略の本体のほうは230ページ弱とページ数がかなりございますので、こちらの概要版で簡単に御説明させていただければと思っております。

こちらに地域戦略の内容を簡単に書いてございます。まず、生物多様性の恵みとは何かということに触れまして、急速に失われる地球上の生物多様性の御説明をさせていただきます。

続きまして、生物多様性を取り巻く国内外の状況も記載しておりまして、その中で東京の生物多様性が抱える課題とは何かというところにも触れて記載をしております。

2050年の東京の将来像も、基本理念を踏まえて提示しているところがございます。

その中で、東京の将来像を実現するための2030年目標を掲げておりまして、その中で2030年目標の実現に向けた3つの基本戦略も掲げております。ECO-TOPに関わる部分ですと、Ⅲの「生物多様性の価値を認識し、都内だけでなく地球規模の課題にも対応した行動にかえる」という基本戦略の中に位置づけております。具体的には、基本戦略Ⅲの行動目標の中の行動方針といたしまして、「生物多様性を支える人材育成」の中に位置づけております。

具体的には、東京都の事業を東京都生物多様性地域戦略のアクションプランの中で位置づけておりまして、ECO-TOPプログラムにつきましては、先ほどの行動方針9の「生物多様性を支える人材育成」の中の20番目の事業として、生物環境保全のための人材育成プログラムという形でECO-TOPプログラムを位置づけさせていただいております。今後とも、ECO-TOPプログラムを通じまして生物多様性を支える人材の育成を推進していきたいと考えております。

これまでも各大学からいろいろと御意見もいただいております、委員の皆様からの意見も踏まえまして、今後より効果的なプログラムとなるように検討していきたいと考えております。

以上でございます。

○黒沼会長　ありがとうございます。

ただいまの合同報告会及び生物多様性の地域戦略におけるECO-TOPプログラムの位置づけの2つの説明をいただきましたが、皆さんのほうから何か御意見はございますでしょうか。

たしか合同報告会には村田委員が行かれていたと思うのですがけれども、村田委員から何かコメントをいただけるでしょうか。

○村田委員　村田です。

11月に参加させていただきました。今回、私自身もすごく久しぶりに参加させていただいたのですが、ポスターセッションはかなりにぎわってまして、他大学の学生の発表を聞き合い、意見交換というか、メモのようなものを使いながら自分の意見を伝えたり質問したりという工夫も、事務局の皆さんのほうで仕組みをつくっていただいたので、学生同士のやり取りがすごく活発に行われていたのではないかなと思います。

対面でもお話しさせていただいたのですが、すごくいい場だと思いますので、最後の合同報告会が「初めまして」よりかは、その前の段階でもECO-TOPを履修している学生同士がつながりを感じられるような仕組みがあると、もっとこのプログラムが盛り上がっていくのではないかなと思って、意見を伝えさせていただきました。

以上です。

○黒沼会長　ありがとうございます。

お忙しいところを御出席いただきまして、ありがとうございます。

そのほかに、何か関連して御意見のある方はいらっしゃるでしょうか。

辻阪委員、お願いします。

○辻阪委員 新しい国家戦略もできてから、国際的な動きもあって、生物多様性に関して企業さんとかいろいろなところでかなり関心が高まっていると思うのです。商工会関係の方もいらっしゃると思いますが、そんな中で今、都の地域戦略の中でECO-TOPがこういうふうに位置づけられていますよという御紹介はいただいたのですが、ぜひECO-TOP認定を受けた人とか卒業生を活用するような都の事業とか、あるいはイベント的なものでも、何か活躍の場を新たにうまくつくれないかなと思ったのですけれども、都のほうではそういうことを何かお考えになっておられませんでしょうか。

○黒沼会長 今の御意見に対して都のほうでは何かあるでしょうか。

○事務局（青山） 青山でございます。

御意見を頂戴しましてありがとうございます。

現時点の状況でございますけれども、今の段階では事業としての活用はないのですが、修了者向けにうちの中でやっているボランティア講習会に費用の減額をして参加いただけたらというインセンティブを設けたりしてございますので、そういうボランティアへの参加を通じて、もう少し東京の実際の自然環境の保全に参加していただきたいなという思いはございます。ですから、そういった情報提供なども、今後は修了生を中心に進めていければいいかなと思っている所存でございます。

ただ、企業向けという辻阪委員の御指摘がございましたので、そちらのほうはまだ考えが煮詰まってははいないですけれども、今後の検討の参考にさせていただければと思ってございます。ありがとうございます。

○辻阪委員 ありがとうございます。

企業さんはどこに相談していいのかわからないということもあろうかと思しますので、ぜひ活用できればいいなと思ったところでした。

○黒沼会長 辻阪委員、貴重な御意見をありがとうございます。

私も同じような質問をしようと思っていたのですけれども、卒業生といったらいいのですか、ECO-TOPを修了した方たちがその後どう活かされているのかというのを含めて、活かせる場所をどこかでつくる起爆剤のようなものがあれば、ECO-TOP自体もさらに伸びるのではないかなという気がしていたものですから、そのような貴重な御意見いただいてよかったなと思っています。ぜひ企業との連携やパートナーシップも考えていただければと思いますので、またみんなで意見を出し合って、知恵を出し合ってやっていけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

そのほかに何か御意見はあるでしょうか。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 委員の先生方と同じ意見、感想を持っております。今日拝見したいろいろな資料も問題ありませんし、事業といいますかプログラムの推進を期待しているところですが、桜美林大学のホームページから少し閲覧してみたら、ECO-TOPプログラムの紹介

ビデオがありまして、なかなか魅力的なおつくりになっていて、なるほどな、こういうのを見て学生はアプローチしていくのかなと思って、その日はそういう側面で見えていました。今日の先生方の御意見をいろいろ伺っていて、また東京都の生物多様性地域戦略の20番目に入っていましたけれども、自然環境保全のための人材育成という位置づけにあるわけですから、なるほどなと思いながら、私も民間企業との連携には少し疎いほうなのですが、アウトリーチといいますか、見えるようなものがそろそろ出てきてもいいのかなという時期を感じました。

ですので、どうしたらいいかという具体的な提案はありませんけれども、ビデオを拝見していると、都知事からの認証の何かがもらえる、履歴書に書けますよとか、いろいろなことを呼びかけているわけですが、出口として、あるいは履修してからこういうことがあるということが積み上がっていったいい時期かなとも思いますので、急がずとも少しうまい具合に取りまとめて、ポスターの場の追加といいますか、どういう場でやればいいのかよく分かりませんが、少しずつ出していけるといいのではないかなと思った次第です。

長く説明してしまいましてすみません。以上です。

○黒沼会長　ありがとうございます。

青山課長、何かございますでしょうか。

○事務局（青山）　渡邊委員、ありがとうございます。

村田委員も同じですけれども、企業との連携というのも実は東京都のほうでも別の事業で進めようというところでやっております。あとは、そこに修了生をどう活かしていくのかという視点をもう少し追加できないかということも、私どもの中で検討を進めさせていただければいいかなと思っている次第でございます。ありがとうございます。

○黒沼会長　ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

そのほかに御意見のある方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。

それでは、最後に、ECO-TOPプログラム全体につきまして、今、そのようなことも少しお話ししたのですが、この機会にざっくりとばらんにECO-TOPプログラム全体について意見交換ができればと思いますが、何かある委員の先生方はいらっしゃるでしょうか。

現時点では、もう既に先ほどの御説明に対する意見ということで、ECO-TOPプログラム自体というか、その後についても方向性を少し検討する時期に入っているのかなというところだと思いますので、また、そういったことが出てきましたらよろしくお願いいたします。

それでは、本日の議題は以上となります。

皆様から何かございますでしょうか。

今日は私のほうのつながりがよくなくて、かなり時間をオーバーしてしまいまして、大変失礼いたしました。

よろしければ、事務局に進行をお戻ししたいと思います。ありがとうございます。

○事務局（青山）　青山でございます。

本日は、お忙しい中、御出席を賜りまして誠にありがとうございました。

先ほど全ての委員からこの制度の次の発展的な形について御意見を頂戴いたしまして、事務局といたしましても、よい制度となりますように今後とも尽力したいと考えてございます。委員の皆様も引き続き制度につきまして御協力賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

以上をもちまして、令和5年度第1回「ECO-TOPプログラム認定検討会」を閉会させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

○黒沼会長 1点だけ最後に質問させていただいてよろしいでしょうか。申し訳ありません。

今年度中に東京都立大学と武蔵野大学は更新申請があつて、その手続を認定検討会でやるという認識でよろしいかということを確認しておきます。お願いします。

参考資料1に年度の進行状況が書いてあったものですからお伺いしました。みんなで情報共有として理解しておいたほうがいいかなと思いましたが、質問させていただきました。

○事務局（西） 御質問ありがとうございます。

参考資料1を共有させていただきます。

東京都立大学と武蔵野大学につきましては、令和6年度いっぱいが認定期間になっておりますので、令和6年度中に更新申請が出てきて更新申請の手続を終えるというスケジュールとなっております。令和7年度から新たな認定期間が始まるというスケジュールでございます。

以上です。

○黒沼会長 ありがとうございます。

青山課長の話を途中で折ってしまいました。失礼しました。ありがとうございます。

○事務局（青山） そうしましたら、委員の皆様から御意見や連絡事項等がございませんでしたら、本日はこれで終了させていただきたいと思えます。引き続き来年度以降も、ECO-TOPプログラム検討会委員として継続して御協力をよろしくお願いしたいと思えます。

今日はどうもありがとうございました。

午後 時 分閉会